

在宅ホスピスフェスタ 2024

そげん頑張らんでよかよ 一人じゃないけん

WEB同時開催

～みんなで支えあう在宅ホスピス～

2024.3.17 アクロス福岡 4F 国際会議場

10:30～16:30

国際会議場 10:30～15:00

10:30 オープニングコンサート/山の音楽家 Shana

開会の挨拶

11:00～ シンポジウム「そげん頑張らんでよかよ 一人じゃないけん ～みんなで支えあう在宅ホスピス～」

12:30～ ビデオレター/2023年度在宅ホスピス啓発、ボランティア活動の紹介

13:30～ 在宅ホスピスを語る会in福岡

① 「面会制限がある中、家族とともにおこなったグループホームでの看取り」

② 「在宅ホスピスボランティアが見続けてきた在宅での看取り」

15:00 閉会の挨拶

フロア 10:30～16:20

10:30～ ポスター展示：在宅ホスピスに関連する医療、福祉、ボランティアの会の活動紹介

医療機器、介護用品、在宅ホスピス関連書籍、相談コーナー、セラピューティックケア体験

もしバナゲーム紹介

15:30～ ポスターセッション

限定公開 YouTube

<https://youtube.com/live/s-gMo7N5nLE?feature=share>



ご挨拶

「在宅ホスピスフェスタ 2024」に御参加いただき、誠にありがとうございます。
また、開催に当たり、多大な御尽力をいただきました「ふくおか在宅ホスピスをすすめる会」及び関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

さて、本県では、高齢化の進行や疾病構造の変化に伴い、医療や介護を受けながら在宅で療養する方が増えており、本県が18歳以上の県民に対して実施した「令和4年度県政モニター調査」では、約5割の方が「自宅で最期を迎えたい」と希望されています。

そのため、本県では、医療や介護が必要となっても、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域づくりに取り組んでおり、医療や介護の専門職による支援のほか、自宅で患者さんが独りになるときの見守りを行ったり、話し相手になったり、外出されるとき付き添いを行ったりする在宅ホスピスボランティアの育成やサポートに先駆的に取り組まれている「ふくおか在宅ホスピスをすすめる会」の皆様と協働し、在宅ホスピスネットワークの構築や在宅ホスピスの啓発に取り組んできました。

具体的には、かかりつけ医や訪問看護師、ヘルパー等とともにホスピスケアに関わるチームの一員として、在宅で療養する方や御家族に寄り添い、患者さんの見守りや話し相手等を行う「在宅ホスピスボランティア」の養成講座や、養成講座を修了し、各地域で活動する在宅ホスピスボランティアが集まり情報交換を行う「在宅ホスピスボランティア交流会」、在宅で御家族を看取った経験のある方などのお話を通じて、在宅ホスピスについて考える「在宅ホスピスを語る会」、そして、本日のイベントでございますが、啓発イベントとして「在宅ホスピスフェスタ」を実施しています。

今年の「在宅ホスピスフェスタ 2024」は、「そげん頑張らんでよかよ 一人じゃないけん～みんなで支えあう在宅ホスピス～」をテーマに開催します。今回のフェスタをきっかけとしまして、在宅ホスピスについての理解を深めていただくとともに、在宅ホスピスの取り組みの輪がさらに広がっていくことを願っています。

令和6年3月17日

福岡県 保健医療介護部 高齢者地域包括ケア推進課
課長 鈴木 茂男

そげん頑張らんでよかよ 一人じゃないけん

～みんなで支えあう在宅ホスピス～

みなさま、今年も「在宅ホスピスフェスタ2024」にご参加・ご視聴ありがとうございます。
ございます。

今年はず、お昼のビデオレターをお楽しみください。県内各地で在宅ホスピスの患者さん、家族を支える在宅ホスピス・ボランティアが活躍しています。彼らに支えられて過ごす日々の活動の姿、そして今年、インド・ケララ州の緩和ケアカーニバルCURIOS（キュリオス）のフィルムもお楽しみください。世界各地で在宅ホスピスに取り組む活動も広がってきています。むしろ私たちは、ケララのコミュニティ活動から学ぶことが多いのかもしれませんが。

辛い経験を経た家族と多職種の関係医者のシンポジウムや面会制限の中での看取りや、ボランティアの関わりの経験なども有意義な話になると思います。

また、会場には、在宅ホスピスに関わるいろいろなクリニックや訪問看護ステーション、介護サービス事業、それに福岡県の在宅ホスピス支援活動などのパネルも展示されます。

今回の在宅ホスピスフェスタに参加した皆さんが、自分のうちの困っている人に「そげん頑張らんでよかよ、一人じゃないけん」と声をかけられるようになれるといいですね。

そのためにも、今日参加した方たちがまず、お互いに声をかけ合ってみてはどうでしょうか？

世界各地で広がってきている「思いやりのあるコミュニティCompassionate Communities」をめざして私たちも共に歩んでいきましょう。

令和6年3月17日

ふくおか在宅ホスピスをすすめる会
代表 二ノ坂 保喜

シンポジウム

「そげん頑張らんでよかよ 一人じゃないけん ～みんなで支えあう在宅ホスピス～」

発表者：金涌 宏美

要介護者：河野 教恵（このの のりえ）

介護認定：要介護5

障がい者手帳：身体障がい2級

享年：91歳

続柄：金涌宏美の実母

介護者は45歳から10年間、介護を続ける。母は68歳からデイサービスに通い、88歳から特別養護施設に入所。風邪から肺炎になり入院、2週間の入院で病院にて敗血症で亡くなる。

家族の支えもあり、自宅での介護では歩行ができないため自宅でも車イスでベッドの生活となる。排泄もすべてベッドでしたが、認知症はなく好きなものを食べて生活する。

かかりつけ医のケアマネジャーの配慮は多く、家族のケアもあった。

入院先のヘルパーさんの「頑張らんでいいよ」の言葉に支えられて、続けることができたことにとっても感謝しています。

亡くなる3か月前の写真です



シンポジウム

「そげん頑張らんでよかよ 一人じゃないけん ～みんなで支えあう在宅ホスピス～」

シンポジスト：広瀬病院 医療ソーシャルワーカー 梶平 幸子

医療ソーシャルワーカーは、入院や通院中の心配事や退院後の生活のことなどに対して患者や家族のお話を伺い、社会福祉の立場から支援します。患者や家族が望む生活が続けることができるように、活用できる制度やサービスの調整を行ったり、病院と在宅医療（訪問診療、訪問看護）、地域包括支援センター、ケアマネジャーなどの地域の関係機関へつなぐ橋渡し役を担っています。

ここ数年、「最期まで自宅で過ごしたい」、「自宅で看取りたい」と希望される方が増えてきたと感じます。そのような方々の思いを汲み取り、どのように地域の関係機関へ橋渡しをしているのか、病院の役割や取り組みを含めて、医療ソーシャルワーカーの立場からお話しさせていただきます。

【略歴】

大学卒業後、社会福祉士を取得し、急性期病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務。2008年3月より広瀬病院（福岡市）に勤務。緩和ケア病棟（2010年12月開設）の立ち上げに携わり、相談の窓口として緩和ケアに関わっている。

シンポジスト：福岡市地域包括支援センター西第6 管理者 三浦 美保

地域包括支援センターは、地域住民すべての健康の維持、生活の安定、保健・福祉・医療の向上と増進のために必要な援助、支援を包括的に担う地域の中核機関として平成18年4月に創設。市町村が設置主体として、中学校区にひとつずつ配置されている。保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等の専門職によるチームアプローチにより、住民の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行っている総合相談窓口である。

福岡市では「いきいきセンターふくおか」という愛称で呼ばれており、市内57ヶ所のセンターで地域の皆様からの相談に応じている。創設から18年を迎える地域包括支援センターではあるが、その業務実態については、まだ知られていない事も多い。シンポジウムでは、専門職が日々どのような相談に応じているか、また地域でどのような活動を行っているかの紹介と共に在宅ホスピスにおける地域包括支援センターが担う役割について触れたい。

シンポジウム

「そげん頑張らんでよかよ 一人じゃないけん ～みんなで支えあう在宅ホスピス～」

シンポジスト：つなぐケアプラン 主任介護支援専門員 河内 正三

平成2年高校卒業後、特別養護老人ホームで13年間勤務する中で、「最後は自分の家に帰りたい。」「家の畳の上で死にたい」という声を聴きながら、思いをかなえることはできず施設や病院で最期を迎えられる状況。

そんな状況をどうにか変えることはできないのかと思い、在宅サービスで自宅での生活を支えたいと感じました。

ケアマネジャーになり、より、ご利用者の望む暮らしに寄り添いたいと考え居宅介護支援事業所「つなぐ合同会社」を設立しました。

「誰か」や「なにか」をつなぐようなマネジメントがしたいという想いをもち、4名の介護支援専門員とともに奮闘する毎日です。

シンポジスト：訪問看護ステーションアンサンブル 管理者 岩橋 千代

在宅看護は、疾病や障害、加齢に伴う変化などを有する全ての人が、自宅やそれに準じた環境で生活できるようにすることを目的とした看護実践のことを指します。

また、在宅看護は、保健・医療・福祉のあらゆる面から、対象およびその家族に対して、生活の質（QOL）の向上を目指した看護を多職種チームで提供することが特徴です。

近年、超高齢多死時代に対応するため地域包括ケアシステムの構築の必要性が広く周知され、各地で保健・医療・福祉の実質的な統合が図られようとしています。

このような中で「治す医療」から「支える医療」へと医療機能がシフトしていくようになり、在宅看護の役割は大きなものとなっています。

訪問看護の内容は、主治医（かかりつけ医）の指示に基づきサービスを提供します。

1. 療養上の世話

食事（栄養）の管理・援助、排泄の管理・援助、清潔の管理・援助、ターミナルケアなど

2. 診療の補助

褥瘡の処置、カテーテル管理等の医療処置、リハビリテーションなど

3. 家族支援に関すること

家族への療養上の指導、相談など

これらのサービスを多職種と連携しながら、「病気や障がいがあっても、住み慣れた家で暮らしたい」「人生の最期を自宅で迎えたい」と望まれる方をサポートすることが訪問看護師の役割です。

訪問看護の強みは、地域で暮らす赤ちゃんから高齢者まで全ての年代の方に、関係職種と協力しあって、一人ひとりに必要な支援が行えるところです

在宅ホスピスを語る会 in 福岡

① 「面会制限がある中、家族とともにおこなったグループホームでの看取り」

登壇者：松本玲子様のご家族 原田 和代

私をキリスト教の幼稚園に入園させたのがきっかけで母はクリスチャンになりました。教会の中でも近所の人たちの中でも母は優しく、いつも「感謝、感謝！」笑顔でした。父とのけんかも見たことはありませんし、孫 13 人の出産のときには、一人一人出向いて世話をしてくれました。また父の両親を引き取って世話をし看取りも献身的にしてくれました。

認知症が発症しグループホームあおいに入所となった父に週 3 回は会いに行っていました。2020 年 4 月に母も脳梗塞で倒れ、病院で治療リハビリをして父と同じあおいに入所することができました。食べることが大好きだった母は言語聴覚士さんのリハビリを受けて自分で食事を食べることができるようになりました。昨年 9 月末頃より、嚥下することが困難になって、看取りが近くなったと説明を受けて姉妹、孫たちが会いに来ました。脳梗塞で倒れて 2 年、コロナ禍で中々直接手を取って会うことができませんでしたが、天国に旅立つまでの 2 日間は母の側で聖書を読み母の大好きな賛美歌を歌い、おしゃべりをしていい時間を過ごすことができ、心温まる看取りと見送りのときを持つことができ感謝でした。

登壇者：グループホームあおい 介護主任 本庄 みゆき

当ホームでは、今年の夏以降、家族の面会を少し緩和しましたが、事前予約をして頂き、時間を指定して面会できる人数も少人数という中での看取りでした。ご家族と

訪問看護ステーションはなの看護師さんと職員が一つのチームとなり、玲子様らしく穏やかに過ごしてもらえるように、精一杯のケアをさせて頂きました。最後の最後まで、ご家族のお母様への優しさと愛情にあふれた時間を共有させて頂いた事に大変感謝しています。

登壇者：訪問看護ステーションはな 統括所長 平野 頼子

近年、最期迎える場所として病院（医療機関）ではなく、在宅（家）や施設での看取りの比率が増えてきましたが、コロナ禍において「施設」も病院と同じように面会制限が厳しく、家族が最期の時の寄り添いを望んでも叶えることができませんでした。その中であって、グループホームあおいでは、ご家族が希望されれば、ご本人、家族にとっての最期の大切な時間を過ごしていただき、看取ることを、訪問看護ステーションはなが医療業務連携を開始した 2007 年より 17 年間に渡って実践してきました。

コロナ禍の面会制限が厳しくなった期間においても 100 歳を超える 3 名の方を含め、10 名の方の看取りをさせて頂きました。お一人お一人それぞれに心温まる物語があります。今回、今年の 10 月にあおいのスタッフや訪問看護師に支えられ、お母様の最期に寄り添われて看取りをされた娘様の原田和代様にその時の思いを語っていただきます。

在宅ホスピスを語る会 in 福岡

② 「在宅ホスピスが見続けてきた在宅での看取り」

登壇者：在宅ホスピスボランティアの会「手と手」代表 林 和恵
にのさかクリニック ソーシャルワーカー 寺町 聡子

2010年に仲間と“在宅ホスピスボランティアの会「手と手」”を立ち上げ、これまでに多くの患者さんのお宅を訪問し、沢山の出会いがありました。同居のご家族がいらっしゃるご家庭、日中は患者さん一人で夜にご家族が帰宅されるご家庭など様々です。今回は、お一人暮らしの患者さんで、最期までご自宅で過ごされた方に 寄り添った事例を中心にお話したいと思います。

【略歴】

林 和恵

2007年度在宅ホスピスボランティア養成講座受講。

在宅ホスピスボランティアの会「手と手」代表世話人。

寺町 聡子

にのさかクリニックソーシャルワーカー。

在宅ホスピスボランティアの会「手と手」発足以来、ボランティアと協働して在宅ホスピスの活動に取り組む。ボランティアと医療介護スタッフとのコーディネートを担当。



在宅ホスピスフェスタ 2024 パネル展示 国際会議場ロビー

	所 属	テーマ
1	福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課	福岡県在宅医療推進の取り組み
2	ふくおか在宅ホスピスをすすめる会	福岡県在宅ホスピス啓発事業の取り組み
3	みどりの杜病院	福岡県内緩和ケア病棟
4	タカラ薬局舞の里	「患者に寄り添う多職種連携の実現のために」
5	田島歯科医院	訪問歯科の役割
6	ケアプランセンターそら	在宅でのケアマネージャーの役割
7	にのさかクリニック	あなたの「食べたい」を叶えましょう ～管理栄養士と言語聴覚士の強力タッグ～
8	にのさかクリニック	在宅患者遺族の会「あゆみネット」の活動報告
9	にのさかクリニック	Compassionate Community を育てる ～にのさかクリニックの取り組み～
10	訪問看護ステーションはな	訪問看護の役割
11	看護小規模多機能型居宅介護三丁目の花や	看護小規模多機能型居宅介護の紹介
12	看護小規模多機能型居宅介護三丁目の花や	能登半島震災ボランティアへの支援活動
13	くるめ在宅ホスピスボランティア NPO 法人結の会	在宅ホスピスボランティアの会活動の実際
14	志免町在宅ホスピスボランティア にじいろ	在宅ホスピスボランティアの会活動の実際
15	東区在宅療養ボランティアの会「ここいる」	在宅ホスピスボランティアの会活動の実際
16	在宅ホスピスボランティアの会「手と手」	在宅ホスピスボランティアの会活動の実際
17	西区在宅ホスピスボランティアの会 はな笑み	在宅ホスピスボランティアの会の紹介
18	いとしま在宅ホスピスボランティアの会 ヴィオラ	在宅ホスピスボランティアの会活動の実際
19	ホスピスボランティアグループときめき	在宅ホスピスボランティアの会活動の実際
20	八女在宅ホスピスボランティアの会ともにかせす	在宅ホスピスボランティアの会の紹介
21	音楽療法士	音楽療法の役割と実際
22	iACP 認定もしバナマイスターズ in 福岡	もしバナゲーム紹介
23	日本セラピューティックケア協会	セラピューティックケアの紹介
	株式会社 EVAH (エヴァ)	福祉用具の紹介
	帝人株式会社	医療機器の紹介
	アサヒサンクリーン株式会社	訪問入浴の紹介
	木星舎	ホスピスに関する書籍の紹介